

日本環境教育学会 第06-4回運営委員会議事要録

2006年11月11日（立教大学）

出席者：小澤、朝岡、樋口、林、荻原、陸、福井、小栗、湊、小堀、木内、戸田、飯尾、植田、金田、山田、見上、小川、諏訪、矢野

欠席者：乾、藤岡、本庄、塩瀬、佐島、西城戸（順不同、敬称略）

記録：櫃本、水谷

1. 第06-3回運営委員会議事要録の確認について

→特に修正箇所なし

<報告事項>

2. 2007年度大会について（矢野）

- ・プレイベントの報告
- ・実行委員会について

月一回のペースで開催。実行委員会も軌道に乗っている。20名の体制で行なっている。

11月10日に鳥取環境大、鳥取大で学生実行委員会が立ち上がっている。

- ・大会の内容について

①講演会の講演者について

②エクスカーションについて

③総会後の送迎バスについて

- ・今後のスケジュールについて

NL76号の記事には実行委員会の動向を載せる。プログラムは、NL77号に同封する。

- ・協議事項

① 予算について：大会準備金の予算は10万円だが、運転資金として40万円支給することが了承された（ただし内30万円は大会終了後返還）。また、第17回大会の決算後に余剰金が出た場合は、第18回大会の費用に充てることが確認された。

②大会前の入会者について：今年度と同じく、入会申込を前提に発表申込を受理することが承認された。

- ・要望事項

① 運営委員に要旨集の巻末の広告掲載の呼びかけを依頼。

② 大会の集客等について、鳥取からは、兵庫や京都のほうが近いので、実行委員会から声をかける。

3. 退会者の確認

11名の退会が確認された。

4. 共催・協力・後援・協賛等の依頼

3件が報告された。

5. 選挙管理委員会より（小川）

- ・以下のことが確認・了承された。
 - ・前回の選挙管理委員会の資料を基に告示資料を作成。会長は被選挙人から除く。
 - ・選挙管理委員会は中立性、独立性を保つため、運営委員会では報告のみを行うが、要望があれば受け付ける。
 - ・運営委員の推薦について、役員選挙規定には推薦者を5名集める必要がない、という規定がある。以前は推薦者がそろったところで、運営委員会で議論していたが、現行の規則では違う。
- ・以下について、運営委員からの提案があった。

独立性の確保のため、①事務局は作業補佐するが、投票用紙の集約先を学会事務局ではなく選挙管理委員長にする。②開票の会場は、事務局である東京農工大学の予定だったが、東京学芸大学にする。③日程が合わないため、投票用紙をNLに同封する予定を変更し、別途送付する。*後日、NLの発行が早まったため同封する方針を事務局から提案する。

→ ①、②については、選挙管理委員会で今後検討。③は承認された。

6. 学術定期刊行物（学会誌）の科研費申請について

学会誌の刊行助成について、樋口委員と相談しながら事務局が作成し、来週持参又は郵送する。ページ数を増やし、合計金額を400万円弱（150万円で申請）にした。採択された場合は、規定をみたすため、原稿集め、欧文比率の確保にも協力してほしい。全運営委員に呼びかけて協力を仰ぐだけでなく、北米環境教育学会や東アジア、実践などを載せるなどして、工夫する方向で検討していくことが確認された。

7. その他

- ・学会への寄贈書籍の回覧。『書齋の窓』への学会紹介の掲載を報告。
- ・関西支部の第15回研究大会の告知（資料配布）。（植田）
- ・第1回関東支部定例研究会開催が決まった。次回は12月10日に開催し、3月11日に総会を開催する。関東支部でメーリングリストを作った。協力者を募る。（福井）

<協議事項>

8. 新入会員の承認

15名の新入会員が承認された。「再入会」については、除籍した会員が、その後会費を振り込んだため、再入会扱いにした。

9. 第2回研究奨励賞の選考について（陸）

第二次審査についての報告。評価のポイントを選考委員3名で決定。事務局から3名に対し、通知を送り、来年の総会で表彰する。ウェブでは、順位をつけずに結果を発表し、審査経過を掲示することが承認された。

- ・以下の点について、提案があった。

応募様式を追加（資金計画、研究全体のスケジュールなど）。

今後の参考として、審査手続きについて明文化。

10. 各委員会からの報告

(1) 編集委員会から（樋口）

- ・学会誌 33 号の発行についてと特集号の記事について、報告。
- ・英語の投稿規程について、規程を設けることを提案
→運営委員会で議論したあと、今後編集委員でも検討していくことに決定。

(2) 広報委員会から（戸田）

- ・ニューズレターの発行予定案、巻頭言に2つのプロジェクト研究のテーマを載せることを報告。
- ・ニューズレターの発送時期について、選挙管理委員会からの同時発送の要望あったが、予定通り進めることを報告。*後日、発送を早めることになった。

(3) 企画委員会から（見上）

鳥取大会のプレイベント（10/21）を支援した。

(4) 国際交流委員会から（小堀、湊）

- ・北米環境教育学会出席の報告。歓迎のレセプションをしてもらい、会長のあいさつ文を代読した。また、シンポジウムを開催した。
- ・北米環境教育学会だけでなく、韓国の環境教育学会との交流も視野におく。
- ・小規模でもいいので、毎年何らかの国際会議を行う。特に、アジアで共通の「環境教育の場」として考えられる「田んぼ」をキーワードにしたい。資金のかからない方法で検討していく。

(5) Web 担当から（林）

- ・団体会員のリンクページについて、報告。
- ・イベントの更新の減少が報告。入試情報など組織的に問い合わせをしてみてもどうか。

11. プロジェクト研究について／大会の総括と今後の活動

(1) 東アジアの環境教育実践（諏訪）

- ・第 17 回大会の報告
- ・今後の見通しを報告（助成金、国際交流委員会と協力など）

(2) 持続可能な開発のための教育（朝岡）

- ・第 17 回大会の報告。報告書をウェブで公開予定。
- ・今後の見通しを報告

(3) 環境教育ガイドライン（小澤）

- ・第 17 回大会の報告。
・今後の見通しについての報告（用語辞典のワーキンググループの関連して）

12. 学会誌・ニュースレター・Web等の位置づけ及び雑誌刊行準備について（林）

- ・雑誌化についての意見を集めた学会でのポスターセッションの報告。
→ニーズの掘り起こしを行い、もう一度仕切りなおしをする。
- ・学会外の環境教育の活動、研究と学会との距離をどのようにとっていくのかの提案。
- ・ニュースレターに代わるメールマガジンやウェブページについても今後検討。

13. 選挙制度及び規約改正に向けた検討について（朝岡）

- ・今のところ委員は小川氏と朝岡事務局長の2人であるので、もう1名を検討する。
小川氏が選挙管理委員長に就任したため、選挙管理委員の業務を終えてから、ワーキンググループを立ち上げる。
ワーキンググループで必要と思われる改正項目をできるだけ挙げて答申を作り、運営委員会で議案を作る、という方針で進めることが確認された。

14. 修士論文・博士論文合同発表会について（朝岡）

昨年に続き、継続して開催する。提案のあった日にちが関東支部総会の日のため、今後検討する。会場は立教大学の予定。

→若手研究者の集いの実行委員会や関東支部の協力を得ながら、若手中心に企画運営してもらいたい。年報化するなども、今後検討したいとの提案があった。

15. 個人情報の保護並びにそれに係る資料の管理について

個人情報の取り扱いや、会員名簿、入会申込書の保管方法などについて、広報委員会にガイドラインの原案をまとめてもらい、そして運営委員会にかけ、5月の総会で諮ることが提案された。原案作成については引き続き協議し、当面新入会員への名簿の配布をやめることが承認された。

16. その他

- ・お詫びと告知について
「第17回大会運営における問題点についてのお詫びとご報告」について修正があった場合は、事務局で検討することが承認された。

17. 次回運営委員会について

2007年1月13日（土）13:00～17:00（東京農工大学）